

東北教区報 2022年3月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <http://nssk-tohoku.com/>

東日本大震災の目に寄せて

「来て、見なさい」

ヨハネによる福音書1章46節

司祭 ステパノ 涌井 康福

コロナ禍になって3年目を迎えてしまい、様々な制約がある中で残念と思うことのひとなつたということが私にはあります。

山形に勤務していた時に信徒のみなさんの賛同を得て、2013年の新地町、石巻訪問から始まり、宿泊を伴う遠出計画は成りませんでした。土曜日や祝日に日帰りで回れる仙台市沿岸部、名取市関上、女川町、南三陸町などを、年に春・秋の2回を目標に訪問させていただきました。

一緒にくださった信徒の方からは「ニュースで見て大変なことだと涙が流れたが、実際に来てみると、画面だけでは伝わらないものを感じる」とができる。ただ行くだけなんて申し訳ないことかと思っていたが、来て良かった。」と感想をいただきました。



石巻市大川小学校モニュメント「Angel of Hope」

また、私自身が「いっしょに歩こう！プロジェクト」や「だいに東北」の働きにかかわらせていただいたおかげで、多少なりとも現地での案

内をすることができたことも感謝でした。そんな中で明らかに地元の人間ではないと見える集団に、毎回声をかけてくださる地元の方がいたこともうれしいことでした。山形から訪問させていただいていることを告げると「ほんとによく来てくださいました。あ

りがとう。」と言われて恐縮してしまいました。どの方とも良い出会いで、それこそニュースでは伝えきれない体験や思いをうかがうことができて、これも現地まで足を運ばないと体験できないことでした。

秋田に移動となり、釜石や気仙沼は片道約3時間の行程で、行けないことはないかななどと考えていたのですが、実現できないまま2年の月日が経ってしまいました。

3月11日が近づき、それを覚える礼拝は、今年も残念ながら各地に分散してのものとなりましたが、秋田では警戒レベルがさらに上がるとの予想が出ており、何とか3月までは安心できるレベルになつていくことを祈っています。

そんなことを思いながら、何となく聖公会手帳をばらばらとめくつていてあることに気が付きました。教会の手帳ですから当然のことですが、公会の祝祭日が載っており、そのほか国民の祝日、広島・長崎原爆の日、聖書日課表の次にある「日記」には、ひな祭りや友引まで書かれて

いるのに、3月11日の欄には（春期聖職按手節）の記載があるだけです。一般のカレンダーも手元にある分については特に記載はありません。ほかにも大災害と呼ばれるものは、年を追うごとに、残念ながら増えてくることでしょう。

「それを載せるのならこれも」と難しいこともあるかもしれないのですが、日本聖公会のみならず、世界の聖公会が祈りと持てる力を上げて支援した東日本大震災、その日3月11日は「いっしょに歩く」とこの象徴として日本聖公会の手帳とカレンダーに載せて記憶しても良いのではないかなと思いました。2011年以降に生まれた子どもたちは小学校の高学年になっています。この出来事を知らない人たちが年を追うごとに増えていくのでしよう。だからこそ、これから教会は「3月11日・東日本大震災の日」を記憶し、何が起こり、私たちはどう動いたのか、その経験をどのように生かしているのか、今何をすべきなのかをあかし続けていきたいものだと思います。

(秋田聖救主教会牧師)

「東日本大震災11年に思うこと」

東日本大震災被災者支援プロジェクト リーダー
司祭 フランシス 長谷川 清純

全世界の聖

公会宣教の5
指標の5番目
「被造物の本
来の姿を守り、
地球の生命を
維持・再生す
るために努力
すること」が
今世紀最大の
宣教テーマな
のではと日々
感じています。
地球全体を
持続可能な世
界にしなければ、
私たち人間と、
そして地球に
いる全生命体の
未来はないの
では…。

私は長い年月東北に暮らして
いて、初めて知ったことが
いくつもあります。その中の
一つは、2011年以前東北
に被害を及ぼした大地震は過
去百余年で12回あったこと。
大津波は、明治三陸地震（1
896年）、昭和三陸地震（1
933年）、チリ地震（19
60年）、日本海中部地震（1
983年）で起きていたこと
です。

私は日本海中部地震津波で

叔父を亡くしています。ウイ
リアムス神学館3年の5月26
日、叔父は八森町（現在の八
峰町）沖合の岩場で磯釣り
をしていて犠牲になりました。
た。親戚行事で度々我が家に
集まって、宴も酣となれば決
まって秋田民謡を歌っていた
叔父を思い出します。その美
声に皆が聞き惚れたものです。
拍手喝采でした。私も末席で
うつとりしていました。その
節回しは今でもはつきり耳に
残っています。

津波に飲まれた遺体が見
つからず懸命の捜査が続けら
れました。夏休み帰省した折、
私は親戚家族と青森県のどこ
か覚えていませんが、イタコ
に口寄せをしてもらい、その
情報が搜索するダイ
バーたちに伝えられ、
そこら辺りに潜って
みたら、数日後に遺
体が発見さ
れました。
私は驚き不
思議に思い、
切ない経験
が少し和ら
いだと記憶



しています。

東日本大震災10周年記念誌
「震災証言集」を読んで、とっ
ても大事な妻や子、孫、祖父
母、友人、隣人たちを亡くさ
れた方々の心情が迫ってきた。
私は悔しさを一生忘れ
られませんか。三陸では東日本
大震災前に悲惨な津波が何度
か発生しています。生き残っ
た人たちは「忘れるな、覚え
ておけ」と後世に記念碑を建
てました。しかしその記憶は
やがていつしか消えていたの
です。

皮肉なことに、人間の愚か
さは今後も目の前から消えて
無くならないでしょう。
原発に由来する健康被害（被
曝）と環境破壊（公害）を知
れば知るほど恐ろしくなりま
す。東京電力福島第一原子力
発電所が爆発し、大気中と大
海に放出し地上と海水と人と
生き物を汚染させた放射性物
質は長期間、地上からも私た
ちの記憶からも消えはしませ
ん。核のゴミは最終処分不可
能な厄介もので、放射能は10万
年どころか100万年以上経っ

ても消えませ
ん。これをど
うしていくの
か、血の汗を
流して善後策
を講じるしか
ありません。
私たちの教
会は聖書の真
理に立ち普遍
性に生きると
同時に、地域
にあつて限定
的に大地に生きています。
つまり垂直であり水平でもあ
ります。これすなわち縦木と
横木の十字架です。人は神と
の交わりと人の交わりで生き
ている存在なのです。神の愛
を受けるから、人からの愛と
人への愛があつて初めて神様
の造られた者として喜べます。
私たち信仰者はキリストの
心を拠り所とし、良心の人び
と・団体と連帯しましょう。
協働しましょう。2022年
を東北の仲間たちといっしょ
に歩いて生きましょう。関わ
り合つて今日を紡ぎ、明日を
開きましょう。
広畑お茶会、水曜喫茶、買
い物バスで繋がる人たちがイ

以下に良心の人びと・団体
の一部をご紹介します。
「311甲狀腺がん子ども
支援ネットワーク」「ひだん
れん」「子ども脱被ばく裁判」
「これ以上海を汚すな！市民
会議」「青森県核燃料サイクル
阻止1万人訴訟原告団」「宗
教者が核燃料サイクル事業廃
止を求める裁判」
最後に「アルプス（ALP
S）処理水海洋放出に反対す
る署名」と「青森県を高レベ
ル放射性廃棄物の最終処分地
としない条例制定署名」にご
協力有り難うございました。

東日本大震災 11周年記念の祈り

記念講演：「東日本大震災後を生きる」

3/11
(金)

14:15 記念の祈り

15:15 オンライン講演

16:45 終了

礼拝開催教会、礼拝・
講演会の配信、式文の案内
ダウンロード等、ページ
は、教区ホームページ
をご覧ください。



執行機関合同拡大会議報告 「なぜ今、協働なのか？」

主事会議 司祭 ヨハネ 八木 正言

去る1月15日、「教区執行機関合同拡大会議」が仙台基督教会を会場に開催されました。本会議は、教区主教、業務組織及び業務分掌規程に記された執行機関の主事、主事のもとに置かれている各グループ及びプロジェクト等のリーダー、展望会議議長、ハラスメント防止・

対策委員会委員長、教役者聖職候補生後援会委員長、東北教区保育連盟会長、東北教区婦人会長、教区現職教役者の21名で構成され、東北教区の宣教活動がより推進されることを目的としています。

3回目となった今年のテーマは「なぜ今、協働なのか？」でした。信徒・聖職数の減少、財政逼迫に加え、昨年来の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、向かい風に晒されている私たちの教区、教会が、それでも宣教を促進さ

せるためにどのような可能性を見出せるのかについて、主事会議からの発題、グループ討議の大きく2つのプログラムがもたれました。

主事会議からの発題では、目の前から課題をなくすことに躍起になるのではなく、課題を乗り越えるために悶々としながら仲間と手を携えて歩むこと、すなわち「協働」こそが新たな「福音宣教理念」となり得ること、同時に、それは当時、労苦と重荷を背負っていた人々（マグダラのマリヤ、姦淫した女、徴税人マタイ等々）がイエスと出会い、希望を与えられ、イエスと共に歩むようになったことを思うとき、イエスご自身の宣教姿勢でもあったことをあらためて銘肝しました。イエスの教えや聖書の言葉も、それを上からの命令としてだけで聞くなら「重過ぎる」のではないか、それよりもエマオ途上の弟子たちが復活のイエスの対話を通して再び「心が燃える」（ルカ24・22）ようになったように、私たちも課題山積の中にあっても共に語り合い、その交わりにイエス

も臨在していただくことを信じて歩もうとの呼びかけが、教区の宣教活動をそれぞれの立場で担うみなさんへの励ましとなったのであれば幸いです。

午後からは自由討議の時間を設け、午前中の発題を受けての「協働実践の具体化」について話し合われました。展望会議発行のニュースレターを他グループもこれに寄稿し活用する協働、聖保連と教育保育グループの協働、その他「奇想天外な協働案までも含め、多種多様なアイデアが提案されました。今後ここでの発案がどのように展開されていくのかが楽しみです。

本会議の開催はしかし、東北教区の宣教活動推進のために会議構成メンバーが共にスタートラインに立ったに過ぎません。今後、ここでの協働案がさらに具体化され、その実践があつてこそ会議開催の意義が深まります。各部門長のみならず、それぞれの部門のメンバーはもとより、教区のみなさんにもご協力、ご協働くださいますよう、よろしくお願いいたします。

各教区正義と平和 担当者の集い報告

司祭 パウロ 渡部 拓

2022年1月11日（火）午後2時からオンライン会議にて、各教区正義と平和担当者の集いが開催されました。当初の予定では、東京での開催が準備されていましたが、昨年末から年始にかけての新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響もあり、2年連続のオンラインでの開催となりました。また今回の集いでは研修や学びの時間はなく、各教区担当者からの報告と、宣教協議会に向けての意見交換というプログラムで進みました。

各教区担当者からの報告では、やはり一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのプログラムを開くことが出来なかったことが報告されました。しかしながら、そのような状況の中でもオンラインを活用した講演会の開催や、情報発信など、工夫をこらしながら実施しているとの報告もありました。中でも横浜教区からの報告に

あった「寿町の活動の現状について」をオンラインにて学んだとの報告からは、このような状況であるからこそ、より困難に置かれてしまう人々が増加していく一方で、その関わり方が感染予防の観点から難しくなっている現実があること。しかしその中でも出来ることをし続けていること等がとても印象に残りました。

その後2023年開催予定の宣教協議会に向けて、意見交換を行いました。その中では新型コロナウイルス感染症の影響で出来なかったこと、途切れてしまったことが多くある中で、より大切になるのはそれぞれの現場にて、人々の声をよく「聞く」こと、丁寧に耳を傾けていくことが大切だろうとの意見や、もうすでに宣教協議会は始まっていると考えて、社会的な問題に教会として取り組んでいく姿勢を、各教区教会が示していくことが求められるだろう、といったことが話し合われました。

これら集いで示された事柄を、少しでも教区に反映させて行ければと思います。

神さまから 委ねられた恵み

～子どもたちと共に～



聖ヤコブ幼稚園 園長

マルタ 長尾 晶子

青森はこの時期らしい豪雪と寒さが続いておりますが、それでも時折差す陽の光に心が和み笑みがこぼれます。1月18日に聖ヤコブ幼稚園の第3学期がスタートいたしました。始園式の中では子どもたちが自ら手を挙げてお祈りをしてくれましたが、その中でコロナが早くなくなりますようにとお祈りしてくれた子もありました。青森は1月下旬からコロナ感染者が3ケタになり、増々の警戒が必要になつてきましたが、この先もマスク・手洗い・3密を避ける、を必須で行いたいと思います。新型コロナウイルス感染拡大も

終息しないまま2年がたちましたが、振り返るとどのような状況下にあつても幼児期に必要な体験を出来る限りさせることが大切だと思っております。クリスマスには、各クラス分散で3回祝会を行い、保護者の方々には子どもたちの成長をとて喜んでいただきました。年長児にとってはページェントをすることは小さい組からの憧れで役選びからセリフを覚えるまで一人ひとり目標をもって神様を信じ、自分を信じて頑張る姿がとても頼もしく思いました。

今、日曜学校には中学3年生が2名と小学3年生の子どもが2名来ていますが、学校とはまた違う関わり方を見ることができ、神様の業を感じることがたくさんあります。男ばかりの3人兄弟の長男Hくんは悩みがとて多い3年生ですが、その悩みを聞いてあげるのとは別の小学校に通っている1人っ子のAくん。Hくんは神様から選ばれて1番最初のお兄さんに生まれてきたんだよ。だから2人の弟のことも分かってくれないと！僕は兄弟がいなくてHくん

の気持ちは分かるよ。」と肩を叩いてドラえもん歌を歌って励ましている姿を見て小さいときに蒔かれたキリスト教の愛の種が小さい芽を出してくれたところを見たような気がいたしました。

聖ヤコブ幼稚園に入園して神様のことを知り、お祈りすることを覚えた子どもたちは毎日のお祈りの中で「神様、今日もお友だちと仲良く遊べますように」と祈る心が身につき、自分の心のうちにいる神さまに話しかけている子どもたちを見て、困難で生きづらい世の中でも私たちのつながりの中にはいつも広くて深い神様の愛があり、それを感じながら光の子らしく成長していつてほしいと願っています。



「各教区青年担当者の集い」報告

青年担当 セント・クリストファー 赤坂 聖矢

1月10日、各教区青年担当者の集いがオンラインにて開催されました。昨年8月に開催された、青年を交えての担当者会から継続して、2023年に開催予定の「全国青年大会」について話し合いました。

した。午前中は、各教区担当者として青年委員会からの青年活動の報告を受けた後、北海道教区信徒の医師、大友宣さんを講師に招き、「コロナ禍の全国青年大会」と題し、プログラム中での感染予防法や感染者が出た場合の対応など、質疑応答を交えながら、コロナ禍において開催するためにはどのような準備や心づもりが必要かご教示いただきました。午後は何ったお話から青年大会の開催を見据えた意見交換を行いました。この意見交換を踏まえた上で、今後青年委員会にて詳細が詰められていくことになるそうです。大友先生のお話の中で、「どうすれば感染しないで開催できる

か」ではなく、「何を大事に、なぜ開催したいのか」を考えるべきとの言葉がありました。コロナ禍にあつて、東北教区でも青年キャンプをはじめ対面での交流を中止しています。オンラインでの交流会を数回開催しましたが、参加者のほとんどはこれまで対面プログラムへの参加経験があり、私自身もオンラインで面識のない方と話す時は取っ掛かりの難しさを感じており、これは参加を拒んでしまう原因にもなるのではないかと不安になります。また、これまで感じていた「同年代が集まれば自然と輪が広がる」ということがなくなっているようにも感じます。

コロナ禍で普及したオンラインプログラムを通して、対面で集まることの大切さに気づくことができました。もちろん、感染者が出ない方がよいですが、それ以上に交わりが絶たれることの方があつてはならないと思います。コロナ禍での開催は、様々な制約があり賛否もあると考えますが、その中でも集まりを持つ意味、意義を見出していくことが大事だと思いました。

シリーズ
わたしの道の光仙台聖フランシス教会
チャールズ 八代 現

私は東京でキリスト教の家に生まれ、物心つく前に幼児洗礼を受け、中学2年で堅信を受けました。しかしキリスト教の家に生まれたとはいえ、堅信を受ける前も受けた後も教会へは足は向かず、すくすくと育っていました。クリスマスやイースターでさえも「部活が忙しい」「友だちと出かける」と、口実を考えては逃げていました。逃げ切ったと言っても良いでしょう。何でキリスト教の家に生まれただけで、「面白くもない教会に行かなければならないのだらう?」と思っていました。

社会人になってからはより顕著になっていく中、色々とあり十数年勤めていた会社を辞めてしまいました。それから間もなく2011年3月11日を迎えました。東京での東日本大震災は、東北のそれよりは揺れは小さいものの、今まで体験したことのない大き

な揺れと、その長さに恐怖したのを覚えています。この震災の直後はテレビの映像に出てくる被災地に「何か出来ないか」毎日考え、募金はそのものの、何か物足りなさを感じていた日々でした。仕事もせずプラブラ放浪していたのが「世間に対する後ろめたさ」なのか「自分にはこんな事しかできないのか」という無力感「なのか、ただでさえこじらせている性格に磨きがかかった大鬱屈状態になっていた。そんな状態を見かねた母が「教会でボランティア募集しているよ」と教えてくれたことが自分の転機となりました。初めて行った東京聖アンデレ教会では、都内のみならず、関東近県の教会や学校から届いたおびただしい量の支援物資の仕分けなどを行っていました。そんな中、当時、

東京聖アンデレ教会の牧師をされていた笹森田鶴司祭から仙台でボランティアを募集していることを教えて頂いたのですが、自分に出来るのか不安で即答できませんでした。4月初旬の話です。それから数日後、加藤主教にお会いす

る機会が与えられました。とにかく今動ける人手が必要であることを強く話されました。不安でしかなかった現地でのボランティアを決意し、一歩踏み出せたのは、直接加藤主教にお会いし、お話し出来たことが大きな要因でした。

今の自分があるのは、震災後、東北の地で、仙台を中心とした教会の人や、ボランティアで集まってきた全国の教役者や信徒との出会いだと思います。ボランティアの期間中は、朝のお祈りで始まり、夕のお祈りで一日が終わり、そんな生活を色々な方々と過ごすうち、今まで殆ど聞いたことのない聖書を聞くうち、そしてボランティアを通して得られた経験や出会えた方々との関わり、それらがあり、今の私の信仰生活が構築されました。あの時、一歩踏み出したことで、曲がりくねってひねくれていた自分の性格が、少しは真つすぐになり開けたような気がします。ボランティア終了後も仙台に住むことになり、もう一歩、自身自身を教会・教区に対して少しでも捧げられたらと思います。

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、その意味を調べてみました。

(第18回 ろうそく)

今回は「ろうそく」について調べてみましょう。祭壇・聖卓の上にはろうそく(燭台)が乗っています。そして礼拝中には火が灯されるわけですが、どうして礼拝中には昼間でも「ろうそく」に火が灯されるのでしょうか。

旧約聖書にも燭台が用いられたことが記されていますから、ユダヤ教礼拝からの伝統ということができるかも知れません。キリスト教礼拝で燭台を用いるようになった理由は、迫害時代にカタコンベ



(弘前昇天教会・ろうそく)

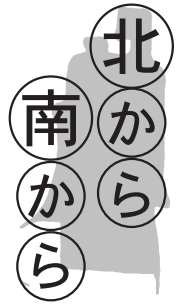
(ローマの地下墓所)で礼拝していたからだというの説得力がありそうです。しかし、直接的にはイースター・ヴィジル(復活徹夜祭・復活日を迎えるにあたって夜を徹して礼拝が献げられ、夜明けに洗礼式が行われた。)でろうそ

くを灯したからだと言われています。

四世紀頃には礼拝で常に用いられていたようですが、西方教会で祭壇上に燭台を用いるように定めたのは、二世紀になってからだそうです。主教司式のハイマス(荘厳ミサ)には七本、ローマス(唱えるミサ)には二本という規程も作られました。

聖餐式をはじめとした通常の礼拝にも燭台は用いられますが、葬送式の時には棺の横に三本づつ計六本の燭台が置かれます。これはいずれもろうそくを「この世を照らす光、キリスト」の象徴として用いています。またろうそくは己の身を削って周囲を明るく照らします。そして私たちにも「世を照らす光」「仕える者」としての業に参与するように求めているのです。

(教区主教)



弘前昇天教会

弘前市内のオミクロン株による新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、教会も1月16日の主日から公開の礼拝は休止に。繰り返し返される礼拝休止も今は静かに我慢の時、日は昇り春は必ず訪れます。

この冬、教会敷地内の駐車スペースの除雪を初めて業者に委託しました。パワフルな除雪機が雪を高く飛ばし、脇に積み上げた雪は、優に車の背丈を超えてしまいました。雪の多さに改めてビックリ！

釜石神愛教会

学園では0歳児6ヵ月受入れを始めて半年、離乳食作りに奮闘しています。

新年度から待ちに待った新卒の栄養士と保育士を11年振りに採用します。給食も保育も、実際の子どものたちの様子に合わせて毎日変化していきますが、勉強してきたことを

活かしながら力を発揮して欲しい、伸び伸びと発揮できる環境を作っていきたいと職員一同張り切って待っています。

山形聖ペテロ教会

コロナ禍で昨年は主日礼拝の5分の1が休止となりました。年が明けオミクロン株の感染が急増し、山形県はまん延防止等重点措置が1月27日から2月20日まで適用となり公開の礼拝が休止に。2年続けてイースター礼拝が中止となりました。大斎節に入り今年には開催できることを願います。

治療薬の創薬が進み通常の社会活動、教会の営みができることを待ち望みます。

西の平聖パウロミッション

西の平の伝道所は八木司祭、加藤主教による「聖餐式」、信徒司式による「み言葉の礼拝」を行っています。先日は

加藤晶子姉にオルガンの奏樂をご奉仕いただきました。毎主日礼拝でより聖職者と信徒の絆が深まったように感じます。

「わたしはぶどうの木、あ

なたがたはその枝である」(ヨハネ15:5)にあるように、今後もイエス様のお導きにより信仰生活を送っていきたいと思っています。主に感謝。

郡山聖ペテロ聖パウロ教会

『Webサイトに挑戦』私たちに今できること！

当教会では国の登録文化財に指定されたのを契機に、聖堂のライトアップ、大型看板の設置を進めてきましたが、昨年はいよいよWeb参入を決め、パソコンシステムを導入、動画などで地域から全世界への発信を開始しています。現在はfacebookを主に発信中で、少しずつですが応答もあり、懐かしい方々からの便りや見学希望者も増えています。教会名の入力で検索できます。ぜひ開いてみて下さい！

教区展覧会では毎月「ニューレター」を発行し、各教会での様々な「ミッション・ステートメント」の実践例、展覧会議の活動等を紹介しています。ぜひお手に取り、皆様の教会での働きにお役立てください。

常置委員会報告

(第3回・1月14日)

◇常置委員長報告

決定した教区諸委員に関して、各部門長へメンバーの変更等について確認し、委嘱状を送付。

◇協議事項

(1) 教区展覧会に畠山秀文氏をメンバーとして委嘱することを追加承認。

(2) 旅費規程運用について、総務主事からの調査に基づき、自動車による旅費燃料費を1円引き上げる。

(3) 次期主教選挙を行うかどうかの意見集約への道程について協議。3月までにオープン・デベートが行えるように準備を進めることを確認。

(4) 北海道教区との合同常置委員懇談会を、1月25日(火) 17時30分からオンラインで行うことを確認。

(5) 新型コロナウイルスの再拡大を受けて、各地域での状況が異なることから、二種陪餐の実施等は引き続き各教会での判断とすること、変更する場合は都度教区主教に報告することを確認。

聖婚式おめでとう

ヤコブ 中道 雅史

小熊 ひと美

(1月10日・青森)

永遠の平安

ヤコブ 志賀 正和

パウロ 山路 瑞彦
(1月21日・八戸)

3月逝去者記念聖餐式

3月1日(火) 午前10時

於 主教座聖堂

司式 吉田 雅人 主教
説教 吉田 雅人 主教

司祭 ペテロ 山本 秀治

1978年3月3日逝去

司祭 ペテロ 松坂 勝雄

1993年3月9日逝去

司祭 パウロ 村上 秀久

1974年3月12日逝去

宣教師 Miss Flora M. Bristowe

1942年3月13日逝去

司祭 パウロ 林 由三

1970年3月15日逝去

司祭 サムエル 植松 謙爾

1978年3月19日逝去

司祭 テモテ 佐藤 光道

2016年3月23日逝去